

<医師用>

意見書

施設名： _____

児童氏名： _____

病名「 _____ 」

_____年 _____月 _____日 から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登所可能と判断します。

_____年 _____月 _____日

医療機関 _____

医師名 _____

印又はサイン _____

保育施設は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぎ、子どもたちが一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。
感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団生活可能な状態となつてからの登所であるようご配慮ください。

医師が記入した意見書が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登所のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで
風疹（ふうしん）	発疹出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発疹出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発疹が痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
結核		感染のおそれがなくなってから
髄膜炎 菌性髄膜炎		
咽頭結膜炎（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの